



防災訓練日特集号

防災訓練の災害想定

「東京湾北部地震」が発生した。都心部は震度6強、佐倉市は震度5強と報道されている。15メートルの北東の風が吹いているが現時点で火災の発生はない。家屋の倒壊もないので一時避難として萱橋公園に集まるが、今後火災が発生した場合は道中の安全を確認して、周辺の市指定避難場所（小学校または中学校ですが、第1順位は小竹小学校とします）へ移動する。誘導は周囲の情報を集めた防災委員および自治会役員が案内します。

文部科学省地震研究所推進本部はマグニチュード7.3の東京湾北部地震が冬の午後6時ごろ、風速15mの条件で発生した場合は東京都を中心に死者11,000人、負傷者210,000人、建物の全壊棟数・火災焼失棟数は85万棟と推定している。

死者11,000人のうち約50%は焼死を想定している。ユーカリが丘でも一番危惧されるのは火災である。震度7の場合、死者の70%は火災で亡くなるといわれているが、火災で湿度が50%を下回るとマッチで柱に火がつき、大火災や火災旋風が起きると強い輻射熱を受けるような状況では人間の髪の毛や着衣が自然発火する。

災害が発生したら

まず「自助」です。「自分の身は自分で守る」ことが第一です。揺れの大きいときはすぐに表に飛び出さず、トイレや玄関など柱の多いところで待機します。揺れが収まったら家族の安否を確認してから家の周囲の被害状況を確認しましょう、異常がなければ黄色いリボンを表示します。

次に「共助」です。ご近所の安否を確認し合ってください。異常が発生した場合はご近所や、親しくしているご家庭に助けを求めましょう。万一家屋が倒壊したり、黄色いリボンの表示がない家庭があったら、まちを守る会の会員にお知らせください。

災害の規模が大きいほど消防や警察の救助は期待できません。”ご近助力“を発揮するときです。防災連絡員や防災委員が、要援護者登録をされている方の安否確認や救助をお願いしたときはご協力ください。

自宅が倒壊した、家具が倒れた（普段から家具が倒れて下敷きにならないような備えが必要です）が幸い怪我のなかった場合、あるいは余震が激しいために家にいるのが不安なときは萱橋公園に避難してください。このときは家に黄色いリボンを掲示することを忘れないでください。

萱橋公園に避難したら「避難者カード」(別紙添付)を作成して自治会のヘルメットをかぶっている班長またはまちを守る会会員にお渡しください。火災が発生し延焼の恐れがあるときは萱橋公園から小竹小学校、あるいは井野中学校などに避難します。できるだけ情報を集めて安全な道路を選んでご案内します。

市は自宅での生活を推奨しています

市は家屋が倒壊していない限りインフラ(電気、ガス、水道等)が止まっても、自宅または友人宅での生活を要望しています。町内の友人やご近所の方のお宅が倒壊したときは、家に呼んでいただき一緒に生活してください。なお、4日目以降の食料が入手できない場合は救援物資に頼りますが、自宅でも友人宅避難でも「避難者カード」(別紙)を提出していただければ、自治会が市の指定避難所に申請します。救援物資が避難所に届いたら自治会がまとめて受領し、配分します。

市の広域避難所について

ユーカリが丘2丁目の避難所が小竹小学校だと決まっているわけではありません。市内39箇所のどの避難所でも受け入れてくれますが、自治会としてはできるだけ同じところへまとまって避難していただきたいと思います。なお、小竹小学校の収容可能人員は550名前後(1人あたりのスペースを4㎡として計算)ですので、2丁目の方全員が避難することはできません。他の町内の方もおられますし、帰宅困難者も収容します。したがって混雑度によって、井野中学校か青菅小学校に避難することもあります。



避難するときや避難所に入所したときは「ユーカリ2丁目」(写真)のプラカードを目標にして、できるだけ一緒に行動しましょう。原則として車による避難はできません(リヤカー、車イスを用意します)。

教室を利用する場合は1部屋20名前後となりますが、家族、親戚、さらにご近所の顔見知り同士を考慮して決めることになっていますので、普段から”ご近助力”を強くしておきましょう (佐倉市避難所運営マニュアル)。

最低限3日分の食糧備蓄は自己責任です

小竹小学校に設置してある市の防災倉庫にはアルファーマを1,350食、乾パン456缶を備蓄(別表1参照)していますが、主として帰宅困難者用です。住民の方々の食料は無い、と考えてください。救援物資が届くのは早くても4日目以降です。

家族、親族の連絡

災害発生時に家族、親戚、友人等と安否の連絡を取るには次の二つの方法がお勧めです。

「災害用伝言ダイヤル171」の利用 *被災地(通信規制)外からも録音できます。

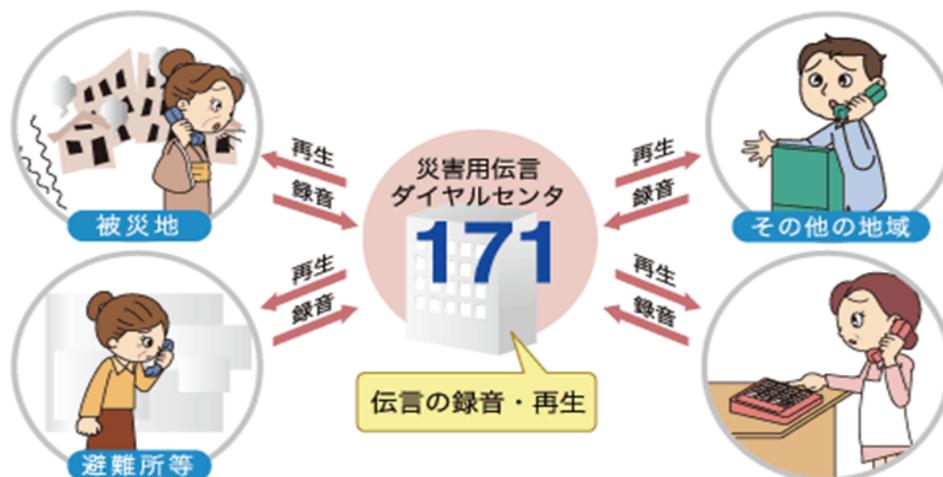
通信規制されても規制地区内からの発信は可能な場合があります。遠隔地の家族、親戚や友人を介して連絡を取ることができます。例えば首都圏が規制された場合、北海道や関西、九州などの都市を中継基地とすることです。

大事なことは普段から家族で連絡方法の確認をしておき、平時に体験しておくことです

「災害用伝言ダイヤル171」の仕組みは下図の通りです。使い方はまず「171」に電話します。一般固定電話・ひかり電話・IP電話・携帯電話から掛けられます。ガイダンス（音声による案内）に従って操作してください。簡単に録音（再生）できます。1回に録音できるのは30秒なので、伝える内容を要領よくまとめてから電話しましょう。なお、10回まで登録することができます。

登録できるのは市外局番から始まる電話番号だけです。佐倉市の場合は043から始めます。携帯の番号は登録できませんのでご注意ください。まずは試してみることです。

下記のように災害時ではなくても体験できる日がありますので、ご家族でお試しく下さい。



「171」の体験利用ができる日

- ・ 毎月1日、15日 00:00～24:00
- ・ 正月3が日（1月1日00:00～1月3日24:00）
- ・ 防災週間（8月30日9:00～9月5日17:00）
- ・ 防災とボランティア週間（1月15日9:00～1月21日17:00）

情報の収集

電話が通じる場合は次の方法で情報収集ができます。

佐倉市防災行政無線のテレホンサービス

防災行政無線の放送を聞き逃してしまったり、聞きづらかった場合に電話で放送内容を確認できます。

0120-711-508

消防自動車が出動したときに出勤先と目的を聞くことができます。

043-485-0119

- * 消防自動車がサイレンだけで出動しているときは「救急支援」として救急車の応援出動です。
- * サイレンと鐘を打ちながら出動するときは火災です。

備蓄品

自治会の防災倉庫に食料品、飲み水の備蓄はありません。

市の指定避難所の備蓄は別表1の通りです。しかしこれらは帰宅困難者に優先して配給しますので、住民の食料（少なくとも3日分）備蓄は自分で用意しなければなりません。

* 小竹小学校、井野中学校、青菅小学校とも防災井戸は使用可能です。

防災倉庫には自宅崩壊時の救出用機器や負傷者搬送用のリヤカー、担架など、また発電機等も備えています。防災訓練の会場で展示しますのでご覧ください。

市指定避難所・防災倉庫の備蓄品 (別表1)

(小竹小学校)

品名	数量	品名	数量
乾パン	456 缶	安全キャンドル	40 個
アルファ米	1,350 食	懐中電灯	10 個
真空パック毛布	600 枚	乾電池(懐中電灯、トラメガ用)	100 本
トイレットペーパー	200 個	担架	10 本
給水 ED 袋	200 枚	救急箱	4 箱
バケツ	200 個	トランジスターメガホン	10 本
ブルーシート	50 枚	浄水機セット	1 台
コンロセット	50 個	発電機	1 台
スコップ	10 本	投光機(コードリール混み)	1 セット
簡易トイレ(ブース)	20 個	リヤカー	1 台
簡易トイレ(ボックストイレ)	20 個	ヘルメット	5 個
簡易トイレ(非常用排便袋)	12 箱	簡易ラジオ	1 台
簡易トイレ(簡易便座)	6 個	軍手	5 ダース

震度の目安

震度による被害状況の目安です。避難するときの参考にしてください。

(2丁目自治会 HP より)

震度4	<p>一部の人は身の安全を図ろうとする。 眠っている人のほとんどが目覚めます。 つり下げ物は大きく揺れ、棚の食器類が音を立てる。</p>
5弱	<p>多くの人が身の安全を図ろうとする。 すわりの悪い置物の多くが倒れ、家具が移動することがある。 窓ガラスが割れて落ちることがある。耐震性の低い住宅では壁などに亀裂が生じたり破損するものがある。ガスの元栓が切れます。</p>
5強	<p>多くの人が行動に支障を感じる。棚の食器類の多くが落ちる。 タンスなどの重い家具が倒れることがある。 補強されていないブロック塀や自動販売機で倒れるものがある。瓦の崩れ落ちることがある。 耐震性の低い住宅では壁・柱がかなり破損したり、大きな亀裂が生じるものがある。 黄色いリボンを提示してから、萱橋公園に避難してください。</p>
6弱	<p>立っていることが困難になる。 固定していない重い家具の多くが移動・転倒する。 耐震性の低い木造住宅では倒壊するものがある。</p>
6強	<p>立っていることができず、はわないと動くことができない。 固定していない重い家具のほとんどが移動・転倒する。 耐震性の低い木造住宅では倒壊するものが多い。 耐震性の低い鉄筋コンクリート造建物では、倒壊するものがある。</p>
7	<p>揺れにほんろうされ、自分の意志で行動できない。 ほとんどの家具が大きく移動し、飛ぶものがある。 耐震性の高い住宅でも、傾いたり大きく損壊するものがある。 大きな地割れ・地すべり・山崩れが発生し、地形が変わることもある。</p>